

おきたま米づくり情報No.8

令和7年7月1日
置賜総合支庁農業技術普及課
J A 山形 おきたま

「6月は記録的高温、さらに1か月程度高温が続く見込み」
葉色は平年より淡く、茎数は平年より少ないが、生育量は十分取れている圃場が多い！
中干しをすぐに実施して、適期の穂肥で暑さに備えましょう！

気象庁は「長期間の高温に関する全般気象情報第1号」発表しました。6月中旬頃から記録的な高温となっており、この状況は今後も1か月程度は続く見込みです。

移植時期・管理の状況により生育差がみられますが、十分な生育量がとれている圃場が多くなっています。効果的な穂肥には中干しが必須です。暑い夏に備えて、うわ根を発達させて登熟力の向上を図りましょう。

○6月30日現在の生育状況（置賜農業技術普及課 生育診断圃）

平年に比べ草丈は長く、茎数は少なく、葉数は並み～多く、葉色は淡い状況です。

「はえぬき」の生育（移植5月18日）

項目	川西町		概況 (平年値との比較)
	調査値	平年比・差	
草丈(cm)	43.6	112	長い
茎数(本/㎡)	476	90	少ない
葉数(L)	9.3	0.1	平年並み
葉色(SPAD)	39.4	-4.1	淡い

●茎数 450 本/㎡以下は穂肥を早める

「雪若丸」の生育（移植5月18日）

項目	高畠町		概況 (平年値との比較)
	調査値	平年比・差	
草丈(cm)	48.5	114	長い
茎数(本/㎡)	571	81	少ない
葉数(L)	10.8	0.6	多い
葉色(SPAD)	43.3	-3.8	淡い

「つや姫」の生育（移植5月21日）

項目	川西町		概況 (平年値との比較)
	調査値	平年比・差	
草丈(cm)	53.4	111	長い
茎数(本/㎡)	487	80	少ない
葉数(L)	9.5	0.1	平年並み
葉色(SPAD)	40.1	-3.3	淡い

●茎数 560 本/㎡以下
葉色 40 以下は穂肥を早める

1か月予報（6月26日仙台管区気象台発表）

気温：6/28～7/4：高い見込み
7/5～7/11：高い見込み
7/12～7/25：高い見込み
降水量：並み～少ない見込み
日照時間：多い見込み

直ちに中干し！作溝とセットで効率的な水管理！暑い夏に備えましょう

○基肥一発肥料を施用している場合は、より適切な中干しと水管理が重要になります。

○草丈が長い傾向です。高温によって、さらに長草化する可能性！倒伏に注意！！

作溝の効果：間断かんがいの効率化 → 根の活力維持、地耐力の向上

作溝は、高温時の水管理“飽水管理”にも有効

中干しの効果：無効分けつの抑制、根の健全化、受光体勢の良化 → 登熟向上

※高温少雨となった令和5年は、用水不足で水尻まで水が届かない事例が一部で発生しました。

作溝は丁寧な水管理のために必要な技術で、暑い夏を乗り越えるための重要な作業です。

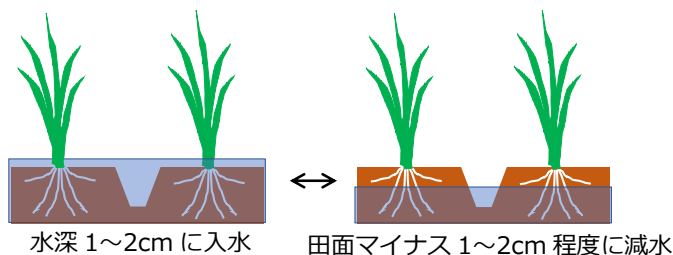
農作業事故・熱中症に注意！

◎「もうちょっと…」という無理が重大事故につながります。

◎ 熱中症予防のために水分補給と休息をしっかりと取りましょう！

高温対策技術（飽水管理） ～令和5年の状況を繰り返さないために～

飽水管理のイメージ



飽水管理のメリット

- 湛水管理と比べて
- ◎夜間の地温が 0.5℃程度低くなる。
 - ◎土壌を酸化的に保つことで、根の活力が維持できる。



飽水管理の様子

飽水管理：田面に水はないが、くぼみには溜まっていて、土壌が常に湿潤に保たれている状態

生育診断を必ず実施、遅れず穂肥！

- 穂肥の施用時期は下表を目安にし、施肥量はそれぞれの品種の生育診断に基づき行いましょう。出穂は平年より 2～3 日程度早まる見込みです。生育の早い圃場では遅れず穂肥を実施しましょう。
- 高温によりイネの消耗と根張りが悪いことから、葉色は淡く経過しています。出穂 25 日前（幼穂形成期）の栄養状態が 1 穂粒数に影響するため、葉色を見て、必要に応じて穂肥の時期を早めましょう。

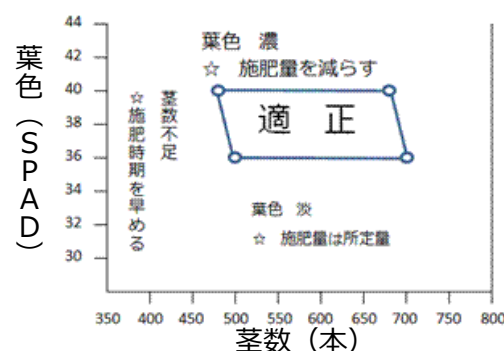
品種	出穂期 (本年予想)	出穂期 (平年)	穂肥の タイミング	穂肥時期の 目安	施肥量 (N kg/10a)
雪若丸	7月30～31日	8月2日	出穂 25 日前	7月5～6日	1.5
はえぬき	7月31日～8月1日	8月3日	出穂 25 日前	7月6～7日	1.5～2.0
つや姫	8月6～7日	8月9日	出穂 30 日前	7月7～8日	1.0～1.5
コシヒカリ	8月7～8日	8月10日	出穂 18～15 日前	7月19～24日	1.0～1.5

【幼穂長と出穂前日数】 ～親茎をむいて幼穂の長さで判断～

幼穂の長さ：出穂前日数 → 0.5～1 mm : 25日 1.5～2.0 mm : 20日 8～15 mm : 18日 2～5 cm : 15日

はえぬきの穂肥診断 7月上旬（10葉期）

- 茎数と葉色が適正内であれば、追肥は出穂 25 日前、窒素成分 1.5～2.0 kg/10a を施用する。
- 茎数が 700 本/m²以上、または葉色が 40 以上の場合、窒素成分を減らし、**1.0～1.5 kg/10a に減肥する。**
- 茎数が 450 本/m²以下の場合、穂肥時期を早める。

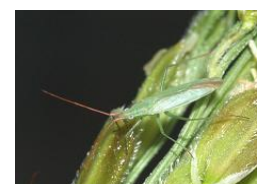


斑点米カメムシ類対策

- 草刈りによって出穂までに生息密度を減らしましょう。
- 除草は 7 月 20 日頃までに地域ぐるみで行いましょう。
- アカスジカスミカメの発生源となる水田内の残草対策もしっかり行いましょう。

※除草剤の使用時期を確認し、使用しましょう。

※農薬の散布にあたっては、隣接する他作物等に飛散することのないよう注意してください。



アカスジカスミカメ アカヒゲホリミドリカスミカメ